

令和5年度鹿児島県がん教育モデル校としての取組

阿久根市折多小学校

1 取組内容

(1) 校内職員研修

本校では、がん教育を行うにあたって全教職員を対象に「がん教育」に関する校内職員研修を夏季休業中に行った。がん教育の目的や歴史、外部講師の活用・がん教育授業の実施にあたっての児童への配慮事項等について共通理解を図った。

(2) 保護者へのアンケート・相談

保護者へのアンケートでは、がん教育を行うにあたり、「心配なことや配慮してほしいことはありますか。」というアンケートをとった。その際に、「ある」と答えた保護者を対象に個別に相談を行い、その後、配慮や支援に繋げた。

(3) 事前授業（令和5年9月14日）

事前授業は、「事前アンケート（タブレット使用）」→「がんの知識の授業」→「がん患者さんに聞きたいことを考える」の3つの流れで行った。

「がんの知識の授業」では、がんサポートかごしまが提供しているパワーポイントの資料をテレビと子どもたちが一人一人手元でも確認できるようにタブレットに映し出しながらの授業を実施した。特に予防法について触れる場面では、「すぐに実践できること」と「大人になってから実践できるもの」に分けて考える時間を設定した。



(4) 本時の授業（令和5年9月29日）

授業は、NPO 法人がんサポートかごしまの三好さんを講師としてお招きし、担任・養護教諭とともにチームティーチングで行った。導入では、養護教諭が事前授業の復習をし、展開で三好さんの話を聞き、終末では、担任が子どもたちからでた意見をもとにまとめをした。また、担任と養護教諭は、配慮すべき児童のサポートも行った。あまり聞くことのできない「がん経験者」のお話を聞いた子どもたちは、命の大切さや共生について理解できた授業であった。



2 成果と今後の展望

(1) 成果

ア 「がん教育」の校内職員研修を行ったことで、「がん教育」の大切さの意識が高まり、授業を行う担任だけでなく、学校全体で取り組むことができた。

イ 「がん教育」を受け、日頃の規則正しい生活習慣が大事であることを知り、児童が今後の健康づくりについて関心をもつことができた。

ウ 外部講師（がん経験者）を活用することにより、児童がより身近に「がん」に触れ、命の大切さに気付くことができた。

(2) 今後の展望

ア 外部講師を活用した「がん教育」は今年度初めての取り組みであった。今後も「がん教育」を継続して行いたい。本校の児童数の減少により複式学級が見込まれることや講師料などを勘案し、隔年で行っていききたい。

イ 今回は、がんを経験された方を外部講師として活用したが、ほかにも児童の実態や授業展開などにあわせて医療関係者を活用するなど、幅広く「がん教育」を行っていききたい。